

JA全厚連情報

(毎月 1 日 発行)

No.1114 2022 年 4 月 1 日

目 次

□ 第 10 次 3 ヶ年計画、令和 4 年度事業計画等原案どおり決定	1
□ 効果的な広報の取組み等について研修	3
□ 医師の働き方改革等について情報交換	4
□ 経営理論について体系的に研修	5
□ 看護職員等処遇改善事業補助金への対応等について協議	6
□ 医師偏在是正や看護職員処遇改善等について協議	7
□ 後藤厚生労働大臣に要望書を手交	9
・通信員だより	
オンライン資格確認システムの導入について（JA秋田厚生連・能代厚生医療センター）	12
コロナ禍での食事を考えて～レシピコンテストへの挑戦～（JA秋田厚生連・雄勝中央病院）	13
白河厚生総合病院附属高等看護学院第 59 回卒業証書授与式開催（JA福島厚生連・白河厚生総合病院附属高等看護学院）	14
JA 共済連福島から健康管理指導車及び感染対策医療用資材の寄贈（JA 福島厚生連）	15
JA 水戸からお米とお茶の支援（JA 茨城県厚生連）	16
院内学術集会を開催（JA 神奈川県厚生連・相模原協同病院）	17
臨床研修医修了証書授与式を開催（JA 神奈川県厚生連・相模原協同病院）	18
令和 4 年度新採用 事務職員・医療技術職員オリエンテーションを開催（JA 神奈川県厚生連）	19
全農長野県本部から衛生物品を支援いただきました（JA 長野厚生連）	20
食生活改善講習会でいつもより豪華な料理（JA 静岡厚生連）	21
JA 静岡厚生連リハビリテーション中伊豆温泉病院建設工事起工式を実施（JA 静岡厚生連）	22
介護保険事業研究集会をWEBにて開催（JA 静岡厚生連）	23
新採用職員全体研修会の開催（JA 静岡厚生連）	24
JA 静岡厚生連看護専門学校 2 校で卒業式（JA 静岡厚生連・厚生連看護専門学校・するが看護専門学校）	25
宮本名誉院長が第 42 回農協人文化賞を受賞しました（JA 愛知厚生連・知多厚生病院）	26
隣接する桜小学校に素敵な「応援のぼり」が掲げられました！（JA 愛知厚生連・海南病院）	27
医療がひっ迫する大阪府へ看護師を派遣しました（JA 愛知厚生連）	28
JA 三重厚生連と桑名市総合医療センターの事務職員連携に関する協定を締結しました（JA 三重厚生連）	29
新型コロナワクチン職域接種（3 回目）実施（JA 愛媛厚生連）	30
大分県で 3 回目の職域接種を実施しました（JA 大分厚生連）	31



JA全厚連

全国厚生農業協同組合連合会

〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル

TEL (03) 3212-8000 FAX (03) 3212-8008

E-Mail: shien@JA-zenkouren.or.jp

(経営支援グループ)

<http://www.JA-zenkouren.or.jp>

編集責任者 中村 純誠

第 10 次 3 ヶ年計画、令和 4 年度事業計画等 原案どおり決定

臨時総会を開催

本会は 3 月 3 日、東京・大手町の J A ビルにおいて臨時総会を開催した。

本総会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面により議決権を行使する方法で開催した。

開会にあたり、山野徹・経営管理委員会会長があいさつを述べ、その後、大川良一・J A 神奈川県厚生連経営管理委員会会長を議長に選任した。

大川議長の議事進行のもと、議事に入り、第 1 号議案「第 10 次 3 ヶ年計画の設定に関する件（案）」、第 2 号議案「令和 4 年度（第 75 年度）事業計画の設定に関する件（案）」、第 3 号議案「令和 4 年度経費の賦課および徴収方法に関する件（案）」、第 4 号議案「令和 4 年度役員報酬に関する件（案）」、第 5 号議案 定款および定款附属書役員選任規程の一部変更に関する件（案）」、第 6 号議案 「規約の一部変更に関する件（案）」、第 7 号議案「退任役員に対する役員退職慰労金の支出に関する件（案）」について上程し、すべて原案どおり決定された。



挨拶する山野徹経営管理委員会会長



総会の模様

第 10 次 3 ヶ年計画（令和 4 年度～令和 6 年度） 重点実施項目**1. 健全経営支援**

- （１）早期収支改善厚生連および要改善厚生連に対する経営改善支援
- （２）保健事業にかかる支援
- （３）JA 厚生事業にかかる発信
- （４）補助金・助成金獲得に向けた支援

2. 制度対応支援

- （１）働き方改革への対応
- （２）地域医療構想への対応
- （３）経営データの活用
- （４）ICT 化への対応
- （５）地域包括ケアシステムへの対応
- （６）会計制度、会計監査、内部統制への対応

3. 制度改正要望

- （１）医師の適正配置等にむけた要請活動の展開
- （２）診療報酬・介護報酬
- （３）消費税負担の解消
- （４）実施可能な事業にかかる行政庁との協議

4. 人材の育成

効果的な広報の取組み等について研修

広報研修会をWEB開催

本会は2月24日、広報研修会をWEBで開催し、21 厚生連から 81 名が参加した。

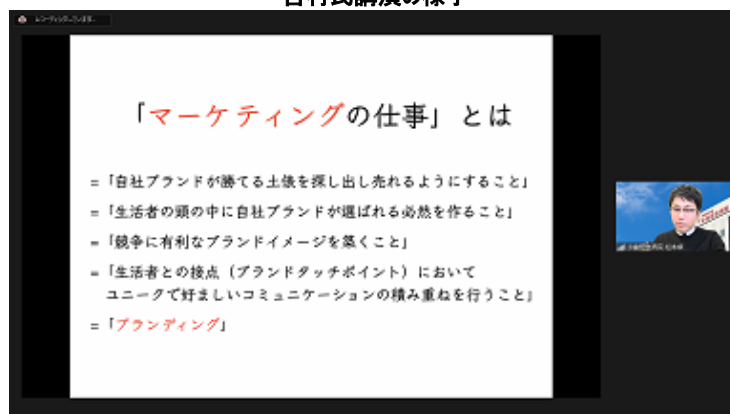
本研修会は、効果的な広報の取組み等を学ぶことを目的に、今年度新たに開催し、当日は日本広報協会 広報アドバイザーの吉村潔氏から「信頼され、支持される医療広報レベルアップ講座」について、小倉記念病院 医療連携課の松本卓氏から「ブランド力を高める病医院マーケティング戦略」について講演いただいた。

この中で吉村氏は「最初に目に入るタイトル・ビジュアル・見出しが重要である」と述べ、広報誌づくりのヒントについて説明を行った。また、各施設から寄せられた広報誌の講評を

松本氏は、講演で「病気になったときに自院を受診する選択をしてもらうため、近隣住民との様々な接点を増やし、好ましい体験を積み重ねてもらうことが大切である」と述べ、小倉記念病院で行ってきたこれまでのブランディングについて説明を行った。



吉村氏講演の様子



松本氏講演の様子

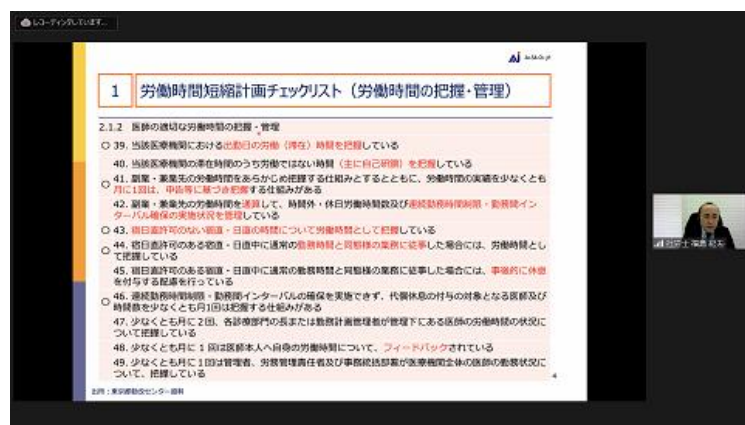
医師の働き方改革等について情報交換 労務関連セミナーをWEB開催

本会は2月25日、労務関連セミナーをWEBで開催し、23 厚生連から 35 名が参加した。

本セミナーは、人事・労務に関連する情勢を把握し、その取り組みを共有することを目的に開催しており、当日は「医師の働き方改革およびその他の制度改革等にかかる動向」（福島紀夫・社会保険労務士法人 あい事務所所長）の講演ののち、情報交換を行った。

講演の中で福島氏は労働時間短縮計画チェックリストの活用や宿日直許可申請の状況、看護職員等处遇改善について説明を行った。また、令和4年4月以降の法改正項目および必要な対応についても説明を行った。

また、講演後、事前アンケートにもとづき、①医師の働き方改革関連について、②看護職員等处遇改善について、情報交換を行った。



福島氏講演の様子



情報交換の様子

経営理論について体系的に研修

厚生連経営管理職層育成研修会（経営理論編） 3 日目をWEB開催

本会は3月4日、厚生連経営管理職層育成研修会（経営理論編）の3日目をWEBで開催し、15 厚生連から 33 名が参加した。

研修会は、株経営革新ラボ代表取締役で経営コンサルタントの田村健二氏を講師に迎え、全3日間の日程で経営理念・ビジョン・経営戦略・経営計画・戦略実行の関係等について体系的に学んだ。

今回の3日目では、戦略・経営計画を実行するための組織づくりをテーマに、①組織を動かす仕組み、②組織活動の前提—について研修を行い、ワークやディスカッションを交えながら学び、参加者からは「これから管理職として働いていく際の意識に良い変化があった」、「自分・組織を見つめ直す機会となった」等の感想が寄せられた。



研修会の様子

看護職員等処遇改善事業補助金への 対応等について協議

事業企画委員会 医療事業部門を開催

本会は3月9日に、WEB会議システムを用いて事業企画委員会（医療事業部門）を開催した。

協議・報告事項として、（１）看護職員等処遇改善事業補助金への対応、（２）新型コロナウイルス感染症にかかる対応、（３）要改善厚生連等の経営状況、（４）事業継続支援スキームの検討・研究、（５）令和５年度税制改正要望の考え方一等について検討した。

（１）について、政府が「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」にもとづきすすめている、看護職員等処遇改善への対応を協議した。令和４年２月から９月までは補助事業として実施され、１０月以降は診療報酬を処遇改善の財源にすることとされている。

委員からは、「看護職員だけを処遇改善の対象とするか、他の職種も対象にするか苦慮している」という意見や、「同じ病院内でも、支給を受けられる人と受けられない人が出てしまう」といった、処遇改善の対象職員等について懸念する意見が出された。

また、１０月以降の対応について、「処遇改善の財源を、診療報酬だけで対応することは無理がある」といった意見が出された。

委員からの意見を受けて、３月２２日に開催される自民党議員連盟「農民の健康を創る会」では、１０月以降の対応において、処遇改善のための収入が確実かつ継続的に確保できる仕組みとするよう要望することとした。

医師偏在是正や看護職員処遇改善等について協議

農民の健康を創る会 幹事会を開催

自由民主党の議員連盟「農民の健康を創る会」（会長：森山裕衆議院議員）の幹事会が、3月22日、自由民主党本部1階「101号室」で開催された。



農民の健康を創る会・森山会長

幹事会には、森山裕会長、金田勝年会長代行、野村哲郎会長代理、宮下一郎幹事長、永岡桂子幹事長代理、三ツ林裕巳事務局長、国光あやの事務局次長、小島敏文事務局次長、藤木眞也事務局次長など17名が出席し、厚生労働省・農林水産省から、審議官など6名が出席した。

JAグループからは、本会の山野徹経営管理委員会会長、中村純誠理事長のほか、JA全中の脇岡弘典常務、JA北海道厚生連の園木勇司専務（本会オブザーバー）、JA愛知厚生連の宇野修二理事長（本会オブザーバー）が出席した。

また、共同で要望を行う公的医療機関の団体として、日本赤十字社の永福副本部長、社会福祉法人恩賜財団済生会の松原了理事も出席した。

幹事会では、厚労省から「新型コロナウイルス感染症対策にかかる令和3年度補正予算および令和4年度予算案」について説明が行われた後、JAグループから団体要望として「看護職員等の処遇改善への対応について」、「医師の偏在是正および医師の働き方改革への対応について」、「新型コロナウイルス感染症対策の継続について」の3点を要望した。

厚生労働省からは、新型コロナウイルス感染症対策について、緊急包括支援交付金を9月末まで継続することとしている旨、回答があった。



JA全厚連・山野会長

出席した議員からは、「看護職員等処遇改善の対象を、他の職員にも広げられるようにすべき」といった意見や「医師偏在是正には、厚労省の踏み込んだ取り組みが必要」といった意見が出された。森山会長は、「医師の偏在是正対策は喫緊の課題である」とし、「地域医療の現場における状況を、我々と行政はきちんと把握していかなければならない」とした。



農民の健康を創る会幹事会の様子

後藤厚生労働大臣に要望書を手交

「農民の健康を創る会」要望申し入れ

自由民主党の議員連盟「農民の健康を創る会」(会長:森山裕衆議院議員)は、3月22日に開催された幹事会での協議を踏まえ、翌23日に、農民の健康を創る会として森山会長から後藤茂之厚生労働大臣に要望書を手交した。

農民の健康を創る会からは、森山裕会長、金田勝年会長代行、野村哲郎会長代理、永岡桂子幹事長代理、国光あやの事務局次長、藤木眞也事務局次長が出席。本会からは、中村純誠理事長が同席した。

要望書では、「看護職員等の処遇改善への対応について」、「医師の偏在是正および医師の働き方改革への対応について」、「新型コロナウイルス感染症対策の継続について」の3つの項目を求めた。

森山会長は、看護職員等の処遇改善について、対象となる医療機関や職種の範囲を幅広く含めていただきたいと訴えた。また、看護職員等処遇改善以外にも、医師の偏在是正や働き方改革への対策、新型コロナを踏まえた関連事業の継続も訴えた。



農民の健康を創る会・森山会長(中央左)および後藤厚生労働大臣(中央右)

令和 4 年 3 月 23 日

厚生労働大臣

後藤 茂之 殿

農民の健康を創る会

会長 森山 裕

要 望 書

J A 厚生連は、公的医療機関として積極的に新型コロナウイルス感染症への対応を行うなど、保健・医療・高齢者福祉サービスの提供を通じて、安全・安心な地域社会の実現に取り組んでいます。特に、厚生連病院の約 4 割は人口 5 万人未満の市町村に立地しており、農山村地域の医療等の確保に大きく貢献しています。

J A 厚生連が事業を継続していく上で、現在、課題となっている以下の 3 点について要望いたします。

なお、本要望書は、同じく公的医療機関である日本赤十字社および社会福祉法人恩賜財団済生会との協議を経て、三団体共通の要望事項として要望するものであります。

1. 看護職員等の処遇改善への対応について

令和 4 年 9 月までの看護職員等処遇改善事業（補助事業）は、対象医療機関や職種が限定されることとなる。J A 厚生連としては、すべての看護職員に対して自己資金を含め処遇改善に対応するとしている。また、同年 10 月以降は診療報酬で対応となるが、財源が確実に担保されるか不透明となっている。

このため、令和 4 年 10 月以降の対応においては、対象医療機関や職種の範囲を見直すなど、処遇改善のための収入が確実に継続的に確保できる仕組みとすること。

2. 医師の偏在是正および医師の働き方改革への対応について

医師の働き方改革については、令和 6 年 4 月から時間外労働の上限規制等が適用されるが、大学病院から医師を引き揚げられることも懸念される。特に、地方の厚生連病院は、医師確保が一層困難になるという悪循環に陥り、地域医療を維持できなくなるおそれがある。

このため、医師の働き方改革については、その前提条件として実効性（即効性）のある医師の偏在対策を講じるとともに、地域医療の確保に支障が生じないように必要な対応を検討すること。

3. 新型コロナウイルス感染症対策の継続について

新型コロナウイルス感染症については、依然として変異株の発生による脅威が続いており、引き続き、同感染症に対応するための体制を維持する必要がある。厚生連病院では、同感染症の影響により、感染拡大前と比べて患者数は減少しており、医療事業損益段階では前年度より回復しているものの赤字となっている。

直ちに患者数が回復することは見込めない中、同感染症に対応できる体制を維持していくため、令和3年度補正予算および令和4年度予算において、新型コロナウイルス感染症関連補助事業を継続すること。

以上



オンライン資格確認システムの導入について

(J A秋田厚生連・能代厚生医療センター)

能代厚生医療センター（太田原康成病院長）では、令和3年12月よりオンライン資格確認システムを導入しました。オンライン資格確認システムはマイナンバーカード、あるいは健康保険証で本人確認をし、支払基金や国民健康保険連合会にある患者さんの健康保険の資格履歴を確認するものです。健康保険証での確認では従来通り窓口で目視の確認になりますが、マイナンバーカードの場合は顔認証付きのカードリーダーで本人確認を行います。

オンライン資格確認を導入することによる最大のメリットは、支払基金や国民健康保険連合会の保険情報を照会できる点です。今までは、患者さんの保険証の情報（氏名、年齢、保険者番号、保険記号番号等）を目視で確認のうえ、手入力をしていました。この方法では事務作業における時間と手間を要し、資格過誤によるレセプトの返戻が懸念されます。しかし、システムの導入により、返戻の削減やそれに伴う作業の軽減が期待できるようになりました。また、患者さんの同意のもと限度額の情報を得ることができます。患者さんにとっても窓口で限度額以上の医療費の支払いを行わずに済むというメリットがあります。

今後はさらにマイナンバーカードの普及が予想されることから、患者さん、病院共に快適でスムーズに診療を行えるように取り組んでまいります。



オンライン資格確認システム

(三浦由佳通信員)

コロナ禍での食事を考えて ～レシピコンテストへの挑戦～

(J A秋田厚生連・雄勝中央病院)

日本病態栄養学会年次学術集会では、研究発表の他にレシピコンテストがあります。毎回テーマに沿ったオリジナルレシピのプレゼンテーションを行います。これまでのテーマは、地域の伝統を生かした減塩食、嚥下食、腎臓病食、糖尿病食、がん治療の支援食があり、今回は「with コロナ大満足 600kcal メニュー」をテーマに行われました。

雄勝中央病院（小松田敦病院長）では、今まで3度応募し、減塩食では優秀賞、腎臓病食では独創賞をいただきました。そして、今回初めて最優秀賞をいただくことが出来ました。最初に応募したきっかけは、秋田にたくさんある伝統食を、コンテストを通して全国に知っていただきたいと思ったからでした。

今回のレシピは「家での食事が増えて作るのが大変」「買い物は週1回にしたいけど野菜などが傷む」「予防にいい食べ物は何？」という、患者さんからの声をもとに『長期保存可能な食材で！簡単コロナ対策レシピ』を作成しました。長期保存可能な食材では、缶詰や乾物、感染症予防の観点から体温を上げる食材や腸内環境を整える食材をたくさん使用しています。また、外出の自粛により日光を浴びないことでビタミンDの不足が懸念されるため、ビタミンDにも考慮したレシピになっています。栄養価だけでなく、見た目、味、食感なども意識しました。

今回、このような賞を頂きたいへん光栄に思います。これからも患者さんが必要とするレシピを提案出来るよう努めてまいります。



『長期保存可能な食材で！簡単コロナ対策レシピ』

(三浦由佳通信員)

白河厚生総合病院附属高等看護学院 第 59 回卒業証書授与式開催

(J A 福島厚生連・白河厚生総合病院附属高等看護学院)

白河厚生総合病院附属高等看護学院(前原和平学院長)の第 59 回卒業証書授与式が 3 月 2 日に同学院講堂で行われ、34 名の卒業生が学院に別れを告げました。

式典会場には来賓の伊藤理福島県県南保健福祉事務所長をはじめ、保護者、病院関係者等約 90 名が出席しました。在校生 66 名はオンラインで教室にて参加しました。

前原和平学院長が卒業生一人ひとりに卒業証書を授与し、「何事に対しても全力を尽くして欲しい。そして自分自身が身も心も常に健康であることを心がけ、患者さんに寄り添い心の支えとなってください。医療人として、学んで自分自身が成長することに喜びを見出していく人生を送っていただきたい。」と式辞を述べました。高久忠 J A 福島厚生連代表理事理事長、大木進司白河厚生総合病院長、仁井田秀子白河厚生総合病院看護部長が挨拶をしました。

来賓祝辞のあと、在校生代表の鈴木翔大さんが「コロナウイルス感染症の影響がある中でも、一つでも多くの学びを得ようと日々努力された先輩方は、私たち在校生の模範であり、誇りです。」と送辞を贈り、卒業生代表の宗像千愛さんが「今日は看護師を目指す私たちのゴールであり、また、三年間で築いた自分の看護を実現し深めていくためのスタートでもあります。私たちを受け入れ看護を学ばせてくださった全ての方々に感謝し、これからそれぞれの道をしっかり歩んでいきます。」と答辞を述べました。引き続き、卒業生代表の柏木心陽さんが学院に記念品を贈呈しました。

卒業生は、4 月から県内各地の厚生病院などで、看護師としてのスタートを切ります。



前原学院長から卒業証書を授与される卒業生

(佐藤剛通信員)

J A 共済連福島から健康管理指導車及び 感染対策医療用資材の寄贈

(J A 福島厚生連)

3 月 7 日、 J A 共済連福島より J A 福島厚生連（高久忠・代表理事理事長）
に対し健康管理指導車（臨床科学分析装置搭載検診車）と、新型コロナウイルス
感染防止対策として医療用資
材を寄贈されました。



寄贈された健康指導車

J A 共済連福島県本部の服部道
夫本部長より J A 福島厚生連の
高久忠理事長へ、目録が手渡され
ました。服部本部長は「 J A 組合
員とその家族・地域住民の方が安
心・安全に受診できる医療機関等

の環境整備と健康増進を支援する事を目的として、健康管理指導車及び医療用
資材を寄贈しますので、有効にご活用ください。」と述べ、高久忠理事長は「有
効に活用させていただきます。」と感謝の言葉を述べました。

J A 福島厚生連では、頂いた健康管理指導車、医療用資材を有効活用し、新
型コロナウイルス感染症防止対策を進めながら、組合員とその家族・地域住民
の健康増進活動に取り組んで行きます。



服部本部長(左)から目録を受け取る高久理事長(右)

(佐藤剛通信員)

JA水戸からお米とお茶の支援

(JA茨城県厚生連)

JA茨城県厚生連（酒井義法・代表理事理事長）では、新型コロナウイルス感染症が蔓延している中で日々感染リスクと隣り合わせの医療従事者への感謝として、JA水戸から「風彩常澄」（かぜいろつねずみ：コシヒカリ）8袋（200kg）とペットボトルのお茶100ケース（2400本）の支援をいただきました。

昨年はデルタ株による「第5波」、そして、今年に入りオミクロン株による「第6波」などの大きな感染拡大を受け、医療提供体制の逼迫が続く中、各病院では医療サービスの継続に全力で取り組んでいます。

酒井義法代表理事理事長は「お心遣いに感謝します。未だ予断を許さない状況ですが、JAグループとして地域の医療を守っていけるように努めていきます。」と感謝の気持ちを述べました。



JA水戸からお米とお茶の支援

(酒井一彦通信員)

院内学術集会を開催

(J A神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院（井關治和病院長）は、令和4年3月5日に院内学術集会を開催しました。

井關病院長の開会挨拶に始まり、診療部 11 名、看護部 3 名、医療技術部 3 名、事務部 2 名計 19 名が演題発表を行いました。各発表後には参加者から内容に対しての質疑応答の時間が設けられ活発な意見が飛び交いました。

厳正なる審査の結果、最優秀賞はリハビリテーション室 米木 慶さん、優秀賞には栄養室 菊池 美優さん、臨床研修医 武内 久旺さん、臨床研修医 遠藤 恵美さんが受賞されました。おめでとうございます！



会場の様子



質疑応答



表彰式

(新嶋友梨恵通信員)

臨床研修医修了証書授与式を開催

(J A神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院（井關治和病院長）は、令和4年3月15日に第17期生初期臨床研修医の修了証書授与式を行いました。井關病院長より研修医一人一人に修了書が授与されました。

2年間の研修期間を経て、医師として新たな一步を踏み出した若いドクター達の意欲に充ちた眼差しが眩しかったです。それぞれ新たな道へと進めますが、今後のさらなる活躍を期待しています。



臨床研修医 鈴木 研裕先生よりご挨拶



修了書授与



記念撮影

(新嶋友梨恵通信員)

令和4年度新採用 事務職員・医療技術職員 オリエンテーションを開催

(JA神奈川県厚生連)

JA神奈川県厚生連・本所（高野靖悟・代表理事理事長）にて、令和4年3月2日、3月8日に事務職員（6名）・医療技術職員（29名）の内定者を対象にオリエンテーションを開催しました。

オリエンテーションでは、「ライフラインチャート」を使った自己紹介を行いました。ライフラインチャートとは、自分の人生における心の充実度の浮き沈みをグラフ化したもので、自己分析などによく使われるものです。それぞれの自己史について、興味深く聞かれている様子が印象的でした。

内定者からは、「これから一緒に働く仲間について知ることができて嬉しかった」と好評でした。



事務職員オリエンテーション



医療技術職員オリエンテーション



自己紹介の様子

(新嶋友梨恵通信員)

全農長野県本部から衛生物品を 支援いただきました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連（社浦康三・代表理事理事長）では、マスク、手袋などの医療衛生物品の贈呈式が3月10日、JA全農長野県本部で執り行われました。各種物品は、新型コロナウイルスへの感染防止対策として支援いただいたものです。

畠田武司JA全農長野県本部長から「昨年から引き続き昼夜を問わず、新型コロナウイルス感染症と戦い続けている、厚生連病院の皆様へ敬意を表し、衛生材料を贈呈させていただきます」と贈呈にあたって挨拶いただきました。

また、社浦康三厚生連代表理事理事長は「昨年に引き続き、多くの衛生物品を提供していただき感謝しています。地域の皆さんの健康を守るという点で、これからもしっかりと取り組んでいきます」とお礼の言葉を述べ、目録を受けました。

支援いただいた衛生物品は各厚生連病院に配布し、大切に使用させていただきます。ご厚意に対し心より感謝申し上げます。



目録を渡す畠田本部長(右)、受け取る社浦理事長(左)

(山岸愛通信員)

食生活改善講習会でいつもより豪華な料理

(JA静岡厚生連)

JA静岡厚生連（荒田庄治・代表理事理事長）はJAしみず両河内支部より依頼を受け、1月13日、食生活改善講習会が開催されました。

山口友里管理栄養士が講師を務め、女性部員15名が参加しました。

講習会のテーマは「自粛中の中、自宅で外食気分を味わえるよう少し豪華な料理を作って味わおう」とし、フライパンローストビーフ、りんごのカップケーキ等4品を作りました。

参加者は「ローストビーフが簡単に作れた。」、「普段家で豪華な料理を食べる機会は少ないから、家でも作ってみようと思う。」などと話していました。



食生活改善講習会の様子



りんごのカップケーキ

(望月俊宏通信員)

J A 静岡厚生連リハビリテーション 中伊豆温泉病院建設工事起工式を実施

(J A 静岡厚生連)

J A 静岡厚生連（荒田庄治・代表理事理事長）は 1 月 28 日、リハビリテーション中伊豆温泉病院（安田勝彦病院長）の新病院建設工事の開始にあたり起工式を実施しました。

新築移転場所である伊豆市下白岩にて、関係者約 40 名が出席し、無事に工事が進むよう祈願しました。

経営管理委員会青山吉和会長は「新病院のコンセプトである地域密着型、東部地区の健康管理とリハビリの拠点病院を実現し、地域医療に貢献しています。」と挨拶をしました。

2023 年の開院をめざし、建設工事が始まります。



起工式の様子



(望月俊宏通信員)

介護保険事業研究集会をWEBにて開催

(JA静岡厚生連)

JA静岡厚生連（荒田庄治・代表理事理事長）は2月20日、「令和3年度静岡県JA介護保険事業研究集会」をWEBにて開催しました。

介護保険事業所を運営する静岡県下のJA、社会福祉法人及びJA静岡厚生連の介護職員など約120名が参加しました。

この研究集会は、利用者により質の高い介護サービスを提供できるよう、職員の質の向上と介護の現状に対して自ら問題提起し、改善に向けた取組みと研鑽を重ねることを目的としています。

初めにJA遠州夢咲福祉センターの副センター長である尾崎勝彦氏による「活動・参加に焦点をあてた自立支援型デイサービスへの改革」と題した報告が行われ、自施設における業務改革の経過や介護情勢を踏まえた自立支援の考え方について話しました。

また、特別講演では、お笑い研修プログラム講師Wマコトによる「笑いの現場から学ぶ！最強コミュニケーション『なんでやねん力』」と題した、コミュニケーション術についての講演が行われ、コミュニケーションを円滑にとるための重要なポイントについて話しました。



介護保険事業研究集会 Web開催の様子

(望月俊宏通信員)

新採用職員全体研修会の開催

(J A 静岡厚生連)

J A 静岡厚生連（荒田庄治・代表理事理事長）は 3 月 1 日、新採用職員全体研修会を静岡県農業会館にて開催しました。

4 月から入職する薬剤師、事務員等 64 名が参加し、J A 静岡厚生連の概要、基本の心得など社会人・医療従事者としての基本マナーを学習しました。

当日は、新型コロナウイルス等の感染症予防のため、広い会場にて対策をとり研修会を開催した。

この春から本会の運営する 4 病院をはじめとする各施設での活躍が期待されます。



新採用職員全体研修会の様子

(望月俊宏通信員)

J A 静岡厚生連看護専門学校 2 校で卒業式

(J A 静岡厚生連・厚生連看護専門学校・するが看護専門学校)

J A 静岡厚生連の運営する厚生連看護専門学校、するが看護専門学校は 3 月初旬卒業式を行い、63 名の卒業生が卒業証書を受け取りました。

学校長は、卒業生へ「看護学校生活の 3 年間で学んだ知識と皆さんの温かな心で看護を実践してほしい」と激励する式辞を述べ、卒業生代表者は、「4 月から配属先での活躍、自分の目指す看護師像に向かって頑張っていく」と決意の答辞を述べた。

両校の卒業生は本会の運営する 4 病院をはじめ各施設への配属が決まっており、この春から看護師として一步をふみ出します。



卒業式の様子

(望月俊宏通信員)

宮本名誉院長が第 42 回農協人文化賞を受賞しました

(JA愛知厚生連・知多厚生病院)

知多厚生病院（水野志朗病院長）では令和 3 年 12 月、東京都で行われた「第 42 回農協人文化賞」選考委員会にて、当院の宮本忠壽名誉院長が第 42 回農協人文化賞を受賞いたしました。

営農事業、一般文化など各部門総勢 21 名の受賞者が決定され、厚生事業部門（1 名）において、永年に渡り当院で地域医療に尽力された功績が認められ受賞となりました。

※農協人文化賞とは…

農協法公布 30 周年を記念して昭和 52 年 11 月に制定され、多年にわたり献身的に農協運動の発展に寄与した功績者を表彰するものです。



宮本忠壽名誉病院長と表彰状

(井桁千聡通信員)

隣接する桜小学校に素敵な 「応援のぼり」が掲げられました！

（JA愛知厚生連・海南病院）

海南病院（奥村明彦病院長）では2月21日、隣接する弥富市立桜小学校の皆さんから手作りの「応援のぼり」を通じて温かい励ましのメッセージをいただきました。

長引くコロナ禍で児童・保護者・教職員の皆さまも我慢やご苦勞をされている中、このようなご支援をいただけることに職員一同、大変嬉しく思っています。



手作りののぼりがたくさん出ており、職員一同感動しました



海南病院の入り口側からの眺め
14本ののぼりが病院前の道路に並んでいます

（井桁千聡通信員）

医療がひっ迫する大阪府へ看護師を派遣しました

(JA愛知厚生連)

JA愛知厚生連（宇野修二・代表理事理事長）では、厚生労働省からの要請を受け、新型コロナウイルスの第6波感染が拡大し医療がひっ迫する大阪府への支援のため、下記の期間で看護師2名を派遣しました。第6波による感染は、愛知県でも拡大しているため、病院勤務体制に影響のない本部職員を派遣しました。

第6波の対応については、沖縄県に続く2回目の派遣となります。

<派遣の概要>

期間 第1期 2月21日（月）～3月6日（日）1名

第2期 3月7日（月）～3月20日（日）1名

活動場所 「スマイルホテル新大阪（150床）」

臨時の医療施設（診療機能強化型宿泊療養施設）

※上記ホテルを拠点に、府内施設等への往診時の対応や入院待機ステーションでの勤務等



2月16日、本部で行われた壮行会の様子

(井桁千聡通信員)

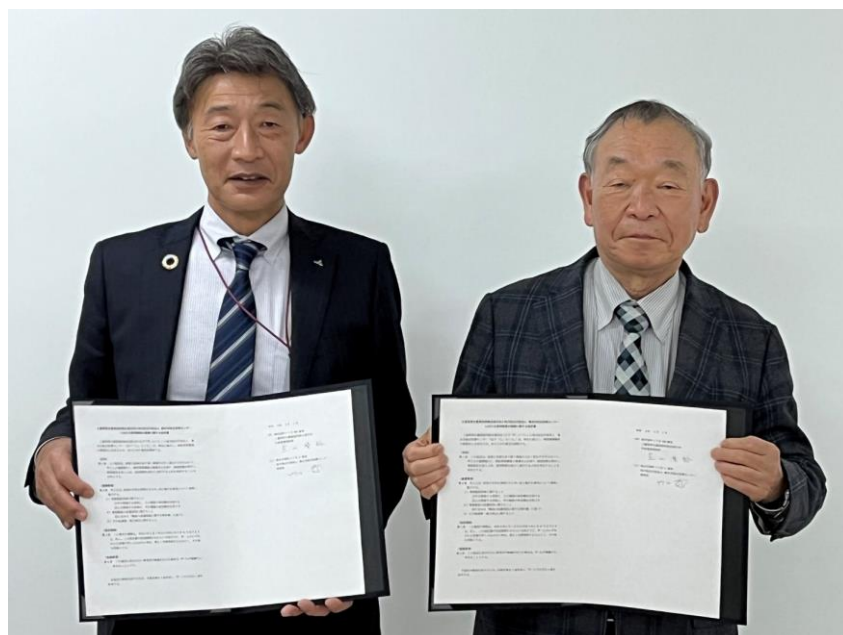
J A 三重厚生連と桑名市総合医療センターの 事務職員連携に関する協定を締結しました

(J A 三重厚生連)

J A 三重厚生連（庄山隆裕・代表理事理事長）は 1 日、「地方独立行政法人桑名市総合医療センターと三重県厚生農業協同組合連合会における事務職員の連携に関する協定書」の締結式を行いました。

同協定は、医療と医療を取り巻く環境が刻々と変化する厳しい時代においても医療に柔軟に対応できるよう、病院事務職員の資質向上に努め、①地域医療を牽引できる人材、②経営戦略を組立て遂行できる人材、③病院経営を担う人材を、J A 三重厚生連と同センターが連携し育成することを目的としており、連携内容には、双方の事務職員研修会に参加できること、派遣研修が行えることなどが盛り込まれています。

同連合会の庄山隆裕理事長は「経営形態が異なる二つの組織間において、こうした協定が結ばれることは大変喜ばしいことであり、双方の事務職員が刺激を受け・切磋琢磨し経営感覚を学び、地域医療を支える人材を一人でも多く育てて行かなければならない」と話しました。



J A 三重厚生連の庄山隆裕理事長(左)と桑名市総合医療センターの竹田寛理事長(右)

(黒田浩一通信員)

新型コロナウイルスワクチン職域接種（3回目）実施

（JA愛媛厚生連）

JA愛媛厚生連（入船恭二・代表理事理事長）では、新型コロナウイルスワクチン接種に関する地域の負担を軽減し、接種の加速化を図るため、職域単位で3回目のワクチン接種を行うことが可能になったことから、JAグループ役職員、JA組合員、関連企業及びその他企業、地域住民を対象とした第3回目ワクチン接種を当健診センターで令和4年2月26日より実施することになりました。

（完了予定日は令和4年4月23日）

新型コロナウイルスは、高い発症予防効果等がある一方、感染予防効果や、高齢者においては重症化予防効果についても、時間の経過に伴い、徐々に低下していくことが示唆されており、感染拡大防止及び重症化予防の観点から、国の実施方針に基づき、初回（1回目・2回目）接種が完了した方を対象に追加接種がはじまりました。

当健診センターにおきましても、新型コロナウイルスの感染防止対策を引き続き徹底するなか、今回の追加接種が感染拡大防止につながれば幸いです。

◆職域接種（3回目）の実施状況◆

時 点	3回目の 接種者数
令和4年3月16日時点	1,804 人

（八竹典子通信員）

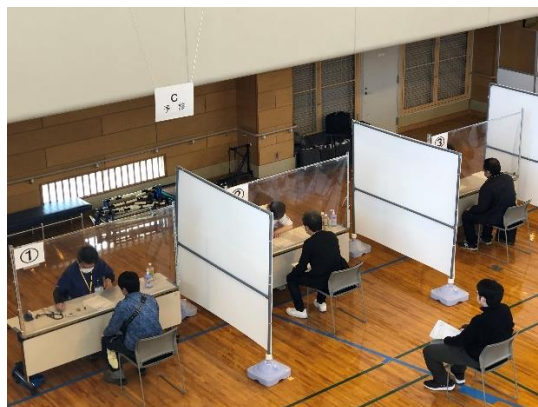
大分県で3回目の職域接種を実施しました

(JA大分厚生連)

JA大分厚生連（石井昌年・代表理事理事長）は、3月19～20日の2日間、JAグループの職域接種を行いました。会場は農協共済別府リハビリテーションセンターの体育館を提供していただき、県内のJA関係者など約1,100人に対し、3回目のワクチン接種を実施しました。

今回の職域接種は、少しでも早く行えるよう、年初より県内各農協に声掛けを行って実施しました。実施にあたり、広い体育館を会場とするため、夏の接種方法とは待機場所の変更を行い、また寒さ対策をきちんと行うことで滞りなく行うことが出来ました。また、接種間隔の都合で今回接種できなかった方に対しても、調整を行い後日接種が出来るよう準備を行っています。

変異株の発生が続き、まだまだ予断を許さない状況ですが、感染拡大防止の一助となるよう取り組んでいます。



JAグループの職域接種 会場の様子

(百崎一貴通信員)